

Mensa（メンサ）について

Mensa とは

MENSA(メンサ)とは、1946年にイギリスで創設された、全人口の内上位2%のIQ(知能指数)の持ち主であれば誰でも入れる国際グループで、現在、世界100ヶ国以上、10万人以上の会員を持っています。主な活動としては、まず、メンバー同士の知的交流の場を提供することがあげられます。その活動には、講義、ミーティング、会報、特定の趣味を持つグループ、地域レベル・国レベル・世界レベルのイベントによる交流が含まれます。そして知能に関するプロジェクトでメンサの内部や外部の研究者への協力を行っています。

Mensa の歴史

メンサは、弁護士のローランド・ベリルと科学者で弁護士でもあるランス・ウェア博士によって1946年にイギリスで創設されました。彼らは高いIQを持つことだけがメンバーとなる条件、という聡明な人々のための集まりを作るというアイデアを思いつきました。当初の目的（現在の目的でもあるのですが）は、政治的に中立で、人種や宗教の違いから完全に自由であるような集まりを作ることになりました。

Mensa の目的

メンサ本部によると、メンサには3つの目的があります。

1. 知性才能を、認知、育成し、人類の向上に役立てること。
2. 知性の原理、性質、そしてその適用などを研究することを激励すること。
3. メンバーのための知的、かつ社会的活動を促進させること。

Mensa の会員数

今日、会員数は全世界100カ国で約105,000人。南極をのぞく世界全大陸の約40カ国に支部を置いています。日本には、現在約1000名の会員がいます。

「Mensa」の意味

「メンサ」とはラテン語で「テーブル」を意味し、円卓を囲むメンバーが皆平等に集まる様子を表わしています。その人の人種、皮膚の色、宗教的信条、国籍、年齢、政治、学歴や社会的なバックグラウンドは無関係です。すべての会員は平等な権利と義務を持っています。

(以上 Japan Mensa HP より引用)

飛び級に関するアンケート結果

JAPAN MENSA 会員 IBD 特別委員長
竹市 悟己

IQ130 以上を会員とする団体の会員に飛び級に関するアンケートを行いました。

1) 実施日時

2014 年 2 月 4 日～11 日

2) 実施手段

JAPAN MENSA 会員の利用する SNS（登録会員数約 470 名）上のアンケート機能を用いました。回答者数は 136 名です。

3) アンケート内容

以下の 2 つの質問をおこないました

注：注このアンケートは個人の資格で行ったもので、JAPAN MENSA 公式の認証を受けたものではありません

質問 1 飛び級制度に賛成ですか？ また飛び級制度があった場合、あなたは利用したと思いますか？

選択肢

- A 飛び級には賛成で、あれば利用したかった
- B 飛び級には賛成だが、自分は利用しなかったと思う
- C 飛び級制度は反対だが、あれば自分は利用した
- D 飛び級制度には反対で、あっても利用しなかった

質問 2 飛び級についてのご意見があれば、コメント欄に記入してください。

4) 結果概要と分析

質問1 回答者数 136名

A 飛び級には賛成で、あれば利用したかった	81名	59.6%
B 飛び級には賛成だが、自分は利用しなかったと思う	43名	31.6%
C 飛び級制度は反対だが、あれば自分は利用した	8名	5.9%
D 飛び級制度には反対で、あっても利用しなかった	4名	2.9%
飛び級への賛成者 (A+B)	124名	91.2%
飛び級への反対者 (C+D)	12名	8.8%
飛び級があつたら利用した、と答えた者 (A+C)	89名	65.4%
飛び級があつても利用しなかった、と答えた者 (B+D)	47名	35.6%

分析

飛び級については賛成が9割を占め、あれば利用するという答えが65%を占めた。大勢は飛び級賛成、しかも参加したいという意見である。

注目すべきは3割以上が飛び級には賛成だが自分は利用しなかったと答えている点で、このような人の質問2の回答が興味深い。

質問2 (自由記述)

質問1でA(飛び級は賛成で、あつたら利用していた)と答えた人の主な意見

- 1) 自分の学生時代を振り返って、飛び級でより広く深い学習ができたはずだ。
 - 2) 個性に合わせた学習を提供するべきだ。
 - 3) 学校の進度が遅すぎると、怠け癖がつき、学習に悪影響を与える。
 - 4) 早く大学まで終わって、世界放浪など、社会勉強の機会を得るべきだ。
- ★ちなみに、小学校は4年で、中学・高校も合計4~5年がいいという意見が多かった。

質問1でB(飛び級は賛成だが自分は利用しなかつたらろう)と答えた人の主な意見

- 1) 飛び級をするとクラブ活動などの仲間とのつながりを保てない。
- 2) 時間をかけないと身に付かないものがある。
- 3) 自分には飛び級を利用するような学力はなかつた。
- 4) 自分は文化系であり、飛び級は必要ないので。

質問1でC（飛び級は反対だが自分は利用しただろう）と答えた人の主な意見

- 1) 人格形成に不安があるので制度化は反対。
- 2) 飛び級生を受け入れる社会制度がない。
- 3) 日本的な心情など、学校で時間をかけて学べるものがあるはず。
- 4) 飛び級ではなく、ギフテッドを集めた教育が理想。

質問1でD（飛び級は反対だし利用もしなかつただろう）と答えた人の主な意見

- 1) 中学・高校時代に親の意思で飛び級させられるのは不自然。大学なら賛成。
- 2) コミュニケーション重視の日本社会で飛び級した生徒の能力が活かせるか不安。

結論

今回アンケートに答えてくれたJAPAN MENSA会員は総体として飛び級に賛成であるが、自分がそれを利用するか否かについては懐疑的な人も一定数いる。その理由はおもに友人社会との関係性が担保できるかという不安、および卒業後、社会が自分を受け入れてくれるかという不安である。

【資料】回答者の意見

質問1でAと答えた人

中学高校は合計4年くらいに短縮してもいいような気がする。この程度であれば人間関係形成とかにも悪い影響はあまりないと思うけど、これは統計とらないと分からないから、安易にはいえないかもしれないけど、勉強の内容としては、中学の3年間で結構あんまり新しいことをしないでダラダラやられた気がする。中2くらいから高校の課程に進めてもできる人は多いと思う。飛び級で早く高校課程を終えて、そのあと世界を放浪したり、仕事経験を積んだ上で、一定の年齢になってから大学に入るという手も使えますし、一度大学に入ってから、この大学が合わないと思ったら受けなおすこともできる。大学院で一緒に勉強したベルギー出身の若者は、飛び級で大学卒業したあと、暫く色々な所で放浪したいといって日本の大学院にやってきた。若くて元気なうちに色々冒険して経験を積むのが良い。早生まれと名門中学入試合格者の関係については受験業界では結構指摘されていますね。なじみやすい生まれ月は確かにあるかもしれない。もちろんそれ以外の月生まれでも適性によって飛び級に向いた人もいるとは思いますが。(40代男性)

私は、飛び級に限らず選択肢が増えることが、少数派には恩恵になると考えています。

(20代男性)
大学で数科目飛び級に近いことをしていましたけれど、こんな感じで一部飛び級は非常に有効だと思います。(20代女性)
<p>中学高校は合計4年くらいでいいと思います。飛び級使うと3年などでもいいでしょう。大学に入る年齢を早めて欲しいかなと思います。若いほうが学問ができるような気がします。大学に入る年齢を下げ、社会にでる年齢を下げる事ができれば、労働期間が伸びるし、もしかして、平均結婚年齢が下がり、少子化対策になるかもしれないというのは大げさでしょうか？(30代男性)</p>
<p>どんな天才でも絶好調期、絶不調期があるはず。自らの絶好調の時期に飛び級が出来るチャンスがあれば、大いに活用すべきです。年上の方々との触れ合い、勉学などが大きな財産になるかも知れないからです。(40代男性)</p>
<p>飛び級は賛成ですが、得手不得手というのがあるので、サポートとセットでお願いします。慎重なのも理解できますが、飛び級対象者が2%いると仮定し、そのうちの5割が飛び級適正者だとすると100万人の人が飛び級適正者で、更に何割かは飛び級した方が有意義な人生を送れたのだとしたら、私は非常に悲しいです。(40代男性)</p>
<p>結論として、「飛び級してもいいけど、そこで飛ばしたものの(感情コントロール法や黒歴史との折り合いの付け方)を後から身につけられるカバー策も要るかな」です。</p> <p>なんであれ能力のある人の行動を制限することに正義を感じないので、飛び級はあって良いと思います。</p> <p>あれば自分も使ったでしょうが、自分が使う場合には見栄やカッコつけというよこしまな動機が多分に混じっていたと思います。</p> <p>この年になって思うのは、「知能をうまく使うための知能以外の要素」の存在に気づくのはかなり年を取ってからだったので、それに気づいてから「飛び級したことによって抜かしてしまった工程をあとから身につける機関や制度」が必要かなと思いました。(40代男性)</p> <p><small>編集者注：「黒歴史」とは自らの触れたくない過去を指す言葉</small></p>
<p>飛び級があれば、高2の頃には卒業していたと思います。</p> <p>授業に出ても、結局内職(授業が数Iなら、内職は数III)するしか無かった。</p> <p>話を聞かないと注意する先生がしばしばいたし、周りの視線も気にはなりましたが、自分が正しいと思ってやってきました。</p> <p>学校教育がリミッターになる意味が分からないです… (20代男性)</p>
<p>Aでした。しかし、以下の点が改善されれば飛び級は不要と考えています。</p> <p>まず、学習内容と集団生活を学ぶという2点の切り分けが必要で、例えばカーンアカデミーのように、全員が同じ授業を同時進行でやらなくてもいい環境を用意できればいい、と思っています。</p> <p>仲間と過ごす時間はそのままに、授業時間を無駄にしない工夫があれば個々に学習を進め</p>

で行けるので、そのクラスに所属するデメリットは人間関係のみになります。
デメリットと言いましたが、これが集団で生き抜く勉強なので、それはそれでいいかな、
と思っています。周囲がガキだから逃げたい、ではロクな大人になりませんし。
こういった形にすること事態が非常にハードルが高いため、恐らく日本での対応は、でき
ても飛び級が限界ではないかな、と感じています。(30代男性)

実際、昔、中学時代に自分の進度が速すぎて勉強に飽きてしまいました。高校時代も結局、
教科書を読めば分かることばかりで授業自体が退屈で、学校を抜け出してビリヤードばか
りしていた記憶があります。結果的に、テストの点だけで押し通し、学校に積極的に行か
なかったために反復練習が必要な英語が身につかず、後で大変苦勞しました。
知っていることを(教師の機嫌のために)知らない振りをして授業を受けるのは本当に苦
痛だった記憶があります。飽きさせない為にも、達成度が充分にある子は、先の授業を受
けさせるべきです。(40代男性)

今の6334制は長すぎます。4234制くらいに凝縮してもいいのではとも思います。
また、飛び級は教育の機会均等につながると思います。実力に見合った勉強ができるとい
うことですから。(10代男性)

Aです。科目別に飛び級が可能であれば特に。(30代 男性)

いままさに小学生の息子が、学校の勉強が遅れすぎてツマラナイと言っています。学校生
活は先輩とも楽しく遊べているので、飛び級しても問題ないと考えています。
私は義務教育こそ飛び級制度を取り入れるべきと考えています。(30代 男性)

小学校は長くとも4年生で卒業でいいです。
4年生時は同級生と遊ぶのもつまらないことが多すぎたので同じサッカークラブの6年生
とよく遊んでいました。
当時、とにかく学校サボりまくってましたが成績はいいので、「今日はサボる」と言うとい
つも親は呆れて笑ってました。
先生も私には何も言いませんでした。
一度学校を途中で抜けて帰宅すると、その後親父共々呼び出されたのですがその時ばかり
は親父にはりたおされました。
「俺に迷惑かけんな！」って。
怒るとこそこーっ!?
って思ったのはだいぶ後のことでその時は納得して謝罪しました。
「これからは呼び出されないように気を付けてサボります」
嘘のようなほんとの話です。(30代 男性)

現行の制度を変えなければいけない点は色々ありますが、基本、飛び級のように、高い学力の子により難易度の高い学習環境を与えることには賛成です。

そもそも、集団授業というのは「同じ内容を同時に複数の人に伝える」ためのシステムだと考えています。現代のように社会に出てからの道や学習の仕方が多様化している時代に、学年制度をあてはめ、みんなで同じ授業を受けることは非効率であると考えます。反転授業や少人数制クラス制度が取り入れられる中で、現場や制度が変わっていき、限りなく個別に対応できる制度というのはとても望ましいことではないでしょうか。

ちなみに私は高知能だけでなく、低知能、いわゆる学習障害などと診断されている子たちにも同様に、学年の枠にとらわれず、その子にあった学習内容を提供することが望ましいと考えています。

また、私は仕事として学習塾を運営していますが、小学校 1 年生から使える学力診断テストを作り、個別に能力を判定できるシステムを作ろうと考え中です。

具体的な対策や問題点などについては、皆さんが出しているような点とだいたい同じです。

部活動についてですが、部活動という区切りをなくすのも一つの考え方だと思います。

学校で行う技能科目は、学校で割かれる時間が少なく、実技に割ける時間も少なく、さらに専門的な講師のもとで学べる環境が整っていないことも考えると、あまり意味がないように思えます。

例えば体育でも、健康な身体を作るという目的があるとするなら、週に 2 回、2 時間程度の時間を設けるのではなく、1 日おきに、またはほぼ毎日 1 時間程度の体を動かす時間を設けるほうが有意義ではないでしょうか。そして、その中でやりたい競技を選択できるようにし、その競技について部活のような形で大会に出場するという形にすれば良いのではと考えています。

このようなシステムは小中一貫校でなければ難しいかもしれませんが、そもそも小中学校という区切りもなくし、習熟度を単位制にしておけば自分の能力を知る手助けにもなると思います。

(30 代男性)

留年があって！飛び級がないのはおかしい！ (20 代男性)

小学校中学校の授業が暇すぎた。あの時間が全て別のことに利用できていたかと思うと残念でなりません。(30 代男性)

小・中は学校の進度が遅すぎてつまらなかった記憶があります。逆に、学校の進度が早すぎてついていけないと言っていた友人がいたのも記憶しています。

同年代の友人と過ごす時間は必要だと思いますので、HR や係り活動等は同年代と、教科書勉強のような科目ものは飛び級があっても良いのでは(飛び級の逆で、前の学年を復習できるのもあり)と思います。現状としては個人指導塾がその役割を果たしている部分があるでしょうか？

ただし、それに対する子供の自尊心等の問題があるかな、とは思いますが…。(20代女性)

例えば大学卒業を一年短縮出来たら、(既出ですが)その一年で国内外を放浪したり研究室巡りをしたり…、それを目当てに学業を励んだかもしれない。

中高では仮に制度があっても飛べても、使わなかったと思う。(50代男性)

大学以降で浪人しまくったので、その分高校までに稼いでおきたかった。(20代女性)

選択肢が増えたらいいだろうということで、Aで。

でも、学校で習うことは勉強だけではありません。

必ずしもそれが役に立つかどうかは疑わしく思います。(30代男性)

日本の制度や人間関係などの問題で飛び級は難しいとしても、特別支援学級のように高知能学級なるものが成立してもいいと思います。(20代男性)

確かに日本の環境では難しいと思うものの、やはり中高生時代に周りの人間との思考の差を感じ孤独を感じました。年上と付き合うのは難しいとは思いますが、飛び級が普及すれば年齢による格差は縮まるのではないかと期待します。(30代男性)

飛び級となるとどうしても学力のことに話が偏りがちになってしまいますが、飛び級するのも人。そこで人間関係やその築き方がある訳で、そういった心の成熟度なども含め今の義務教育があると思っています。また小さい頃の方が無駄な勘繰りなく周囲の環境への適応が早く能力も育つ気がするので、個人的には小学校を3年×2で分け、中学校が3年、ここまで義務教育として、この先の高校・大学は飛び級ありというのが賛成案です。中学を卒業したと同時に大学生！というのももちろんあり。15歳にもなれば本人の判断も親に飛び級を押しつけられたというようなことも自己責任でいいのでは？ただ、もう一つ付け足すと、飛び級制度導入に伴い義務教育内(特に中学校)でも留年ありというのが補足案となります。(20代男性)

日本の社会には飛び級制度は馴染まないんだろうな一と思いつつも、あれば賛成だし、利用したでしょうね。なくても充分「浮く」わけですから。

私は母親が元教師で、母親も高IQなヒトです。そして幼い頃マンツーマンで指導されていたのですが、思い返せば「勝手に飛び級」させられていた気がします(与えられた問題集が1～2学年上のモノだった)。

ただ、中学受験は(なんとなく)したくなかったのと、母親に指導されるのが(なんと

<p>く) 嫌だったので小学校高学年からはその指導方針からは離脱しました。</p> <p>まー結局そのアドバンテージとやらが活かされたのかどうかは今もって不明ですが…。</p> <p>これを制度の仕組みとして考えてみた場合、ある意味、横一線で走らされる（自身、周りの軋轢を気にしながら調整をする）よりは「あんたは違う」と言われた方が「腹の括り」は違うかなーという気はします。</p> <p>それを選ぶかどうか、選んだ上で何をするかは本人次第なのは変わらないとも思うし。オプションの一つとしてあっても良いのではと思うくらいですかねー （30代男性）</p>
<p>中学時代は学業的に暇でした。その分クラブ活動は充実していましたが。高校時代は質・量とも増え受験勉強に追われた感じ。</p> <p>飛び級制度があれば中学高校にて1年短縮し10代で1年留学してみたかったです。（当時、高校で留学した人は休学として1年遅れの扱いでした。） （40代女性）</p>
<p>飛び級制度に賛成で飛び級制度があれば利用していました。つまりAです。小学校や中学校の暇な時間をもっと新しいことを学ぶことに使えたのではないかと思います。国単位で考えても、能力の高い子供が早く高いレベルの学習内容を習得して、早くから日本に貢献することは国としてもメリットが大きいのではないかと思います。デメリットとして挙げられるであろう、人間としての成熟度や人間関係の構築力について触れておきますと、同じ学年の友達と長い間馴れ合いを続けることは必ずしも人間としての成熟度や人間関係の構築力につながるものではないと思います。本当に仲が良い友達とは長く続くでしょうし、新しく接する人と関係を作っていくことこそが、人間関係を構築していく力になり、社会に出てからも役に立つでしょう。（20代男性）</p>
<p>国内でもインターナショナルスクールとかは、飛び級制度とかあるみたいですけど、やっぱりそういう子の話を聞いていると羨ましく感じますね。</p> <p>飛び級もいいですけど、個人的には幼少期から興味を持ったことを研究できるような施設がほしい。（20代男性）</p>
<p>長くて全てに目を通してないので既出かもしれませんが、学校の目的を学問を修めることと発達を促すことを分けて考えるべきかと。得意科目はいくらでも伸ばしているが、苦手なものは蔑ろにすべきではない。海外の例では学問ばかりに目を向けて飛ばした結果、大学修了後に同年代がいる高校に再入学した事例もありますし、同年代と過ごす時間も勉強と同じくらい重要だと思っています。飛び級と同時に留年(と言うとイメージが悪いのですが、再履修のイメージ)も認めて良いかと。抜本的な教育・学校制度の見直しが必要ですが、あって良い制度だと思います。（30代男性）</p>
<p>学校の教科書の内容が古くなっていて社会に必要なことに追い付いていないので、時間ももったいないというのが理由です。ただ・・・教える内容が変わらないのであれば、大学や研究レベルまで飛び級しないと意味がでてこないと思うので、飛び級して得られるメリットが少なく、飛び級制度を施行することに費やす労力と割に合わなさそうです。それよりは、小学生から個々人の限界に挑戦できる研究に時間を多く割けるようにする方が、同</p>

<p>じ年齢で凄い研究してる人が身近にいる環境になって刺激を受けられるし全体に効果がありそうです。(30代 男性)</p>
<p>個人的には飛び級というオプションがあるのは賛成です。 小中位の時は授業が暇であったり、特に目新しいことがなく興味が持てないということがありました。興味はあるけどどこでどのように知ることができるか、わからないということが多かったように思います。余力があり興味があるのであれば、飛び級をして先に進むというのも1つの選択肢としてあってもよいと思います。(不明 男性)</p>
<p>例えば理系で大学に飛び入学した場合は、大学で「高校現代国語」的な科目を履修させるような、専門外の分野に対するフォローがあるとよいと思います。大学生は元々浪人等年齢が揃っていませんし、数歳若く入学しても人間関係の問題はさして生じないと思います。(20代 男性)</p>
<p>子供の時は、とにかく一刻も早く、難しいことを勉強したいと思っていました。(でも、どうすれば良いか分からなかった。) 15歳くらいで大学に入学できて良いんじゃないかと思えます。(40代 男性)</p>
<p>私は飛び級ではないですが、幼稚園を一年早めにいってそのまま進学したので今同じ学年の人より年齢は一個下です。韓国は割と早生まれの扱いがグレーで何人か同じ学校にいたりしましたが、日本はまだそういう例がなくて、ここにきて飛び級って言われたりしました。実際教育課程は平均を基準をして作られたもので、上の学年のものも理解できるのなら何年でも関係なくちゃっちゃと進んだ方が個人的にも社会的にもいいとは思いますが・・・(10代 男性)</p>
<p>飛び級、小学校2年生の時やりました(米国の多くの学校でこの制度があります)。 Kindergartenの時に英語が全く出来なくて一年留年になったことで同級生との年齢の差をキャンセルし、普通の学校に加えて受けていたロシア語教育で習っていた数学や歴史や理科を再度習わなくて良くなって、自分の経験のレベルに合った課題に挑戦出来ました。飛び級が出来なければ既に知ってる知識の無駄な繰り返しばかりになっていて、退屈してただろう。 日本の教育制度ではどうなるのかな。。米国と違って、日本の学校で、単なる課題に加えて生活や社会スキル(給食放送、日本文化、片付け、マナー)もたくさん習うみたいなので、飛び級があっても他のところでデメリットになるかもしれません。。(20代女性)</p>

質問1でBと答えた人

<p>飛び級は賛成です。 でも、部活仲間の事を考えると利用しなかったかもしれません。(40代 男性)</p>
<p>飛び級よりも先生のしゃべる早さを倍速にするか、授業の時間を半分にしてもらうほうが楽しそうだからです。中学校は公立だったので、想像を絶するくらい授業が暇だったので</p>

すが、隣に座ってるヤンキーとかに勉強を教えて成績を上げるのを生きがいにしている時代もありました。きっかけさえあれば、無事に高校に入れるくらいの学力には育つものです。そんな感じで幅広い人達と仲良くなれたのは無駄じゃないと思っているので、あんま飛び級はしたくないです。あと忙しいと本を読む時間が無くなってしまいます。

(30代 男性)

Bです。私立の進学校の中高に入ったお陰で楽しく過ごせましたが、もしそんなにレベルの高くない公立などに入っていたら飛び級を切実に望んでいたと思います。

理想は話と学力の合う同年代が周りにいる環境かなと思います。同年代の平均と差が大きいという理由で年上の集団に放り込むよりも、同年代の中で似たような人を集められたらなど。実際やるのは難しいと思うので、あくまで理想です。(20代女性)

Bです。時間を時間通りかけなければ得られないものもあるかと。(40代 男性)

制度はあったらいいと思う。でも、私は飛ぶ学力はなかったな(知能と学力は別物だと思います)。逆に、小学校から落第を増やすといいと思うのですが、日本の社会情勢では無理か。単位制なら可能かも。(40代 男性)

特別な能力があり、かつ、それが高校への3年間在学を強制することによって潰れてしまうような例外的な場合に、一つの選択肢として飛び級を認めることには賛成です。ただ、際限なく飛び級を認めると、それは6-3-3の否定になってしまいますから、それは別途6-3-3自体を再検討すべきではないでしょうか。高校生活は勉強だけでなく、日々の生活を通じて様々な人生経験を積むという意味もありますし、高校と大学の様々な違いを考えると、高校と同じ経験を大学ですることができるとはどうも思えないので、一律に在学年限を短縮することには疑問を持ちます。ちなみに僕自身は、東大入試ですら一浪してやっと合格した程度のレベルなので(教科、科目別に成績が良かったものといえば、せいぜい、学年トップクラスの成績を取ったことのある化学と政治経済くらいのもので)、たとえ飛び級制度があっても到底相手にされなかつたらしく思います。(50代 男性)

子供の頃(特に小学生の時と中学生の途中まで)はテレビゲームに狂った子供だったなと。ゲームばかりしてて、ほとんど勉強に関心を持っていなかったと思うので、Bの賛成だが自分は利用しなかったに。

石川県の人口10万人ぐらいの都市で育ち、隣接の都市もそれ以下の人口です。そういう地区に私立の小中学校とかはなかったりです。で、うちの田舎みたいところに制度を作ったとしても、飛び級の制度のある学校ができてたのかどうか疑問が。石川県とかだと県庁所在地にそういう学校が一つできればいい方かな?と。

子供の頃、たまに自ら興味を持ち、自力で勉強しだすと成績は良かったり、学んでいる事を楽々習得できたりしたと思うのですが。スポーツ選手は学年で早い時期に生まれた人が

多いとか読んだ事があります。同じ学年の中で体格面で有利になり、スポーツで勝つ等の成功体験が得られやすいとかで、続けるモチベーションになるとかいう話だったかと(どの程度多いかは謎です(そもそも多いのかも謎)。 (不明 男性)

飛び級できるほどの成績ではなかった。特定科目だけの成績で飛び級させるのには反対です。一口に飛び級と言っても、手法としては学年の飛び級、飛び入学、早期就学、学位認定審査(高認、大検のような)等があり、組み合わせによりさまざまなバリエーションが生じると思います。飛び級とは逆に、義務教育における留年なども議論の余地がありそうです。

私は教育政策や学校制度に関する基礎知識が欠けているので、何が良いのかはよくわかりません。飛び級制度の目的にもよります。個人の自己実現なのか自由なのか幸福追求権なのか、国威発揚なのか産業振興なのか学術文化への寄与なのか。ただ、飛び級により創出されるメリットが国や個人にあるのだとしても、本人や親権者と意志でそれを選択したり、しなかったりできることが必須だと思います。もちろん飛び級の基準をクリアした人についての話です。(40代 男性)

今の私の核となる部分を中高の6年間で身に着けたので、私はそれを減らしたいとは思わなかったし、今でも思わないです。素敵の人々に恵まれていましたし…。(30代女性)

自分の考えとしては、個人レベルで見れば人付き合いの仕方は人それぞれで飛び級したから対人関係の形成ができないということはない、というのは正しいかもしれませんが、すべての子供に個別に対応することが事実上不可能だと思われるので、制度として制定するのは少し待ったほうが良いと思います。可能ならば授業にかぎらず学年をまたいだ教育の機会が必要なかもしれません。すでに普及している制度ではない以上ちゃんと移行できるのか、また教師を含めた大人からはどう見えるのか、も考えなきゃいけないと思います。飛び級そのものには賛成ですが、工夫が必要かな、とそんな気分です。(20代男性)

飛び級はあってもいいと思いますが私には縁のない話です。何故かと言うと私が文系だからです。数字の計算や図形処理などの数学分野では神童がいますが、国語や社会、政治経済と言った文化系分野では絶対に神童は生まれません。経験を積むこと以外に上達はあり得ないからです。飛び級制度は理数系学問には理数系科目には適用できますが文化系科目には適用できません。そのことをお忘れなく。(20代男性)

ただ、中学卒業後、高専へ、そして20で日本企業就職からの25で外資の日本法人へ転職と、なんとなく人生を急いでる気がします。

中学までは同年代の友達、就職してからは2世代上くらいが主に友達、これからは年齢も国籍も幅広く友達ができそうで

広く深く長く触れ合える付き合い合えるような関係を築ける環境があったらいいなあと思いました。(20代男性)

飛び級制度は、勉強を先に進みたい人が周りのペースに合わせる必要ないので、良いと思います。

ただ、学力が高いこと、カリキュラムが先に進んでいること、研究で優秀な成果を収めていることと、精神年齢が大人であることとは分ける必要があると思います。

極端な話、10代で大学学部卒業しても、24才で大卒資格を持っている人と、成熟度合いが違う場合もあると思うので、同列にならないようにしてほしいですね。

ただ現状、日本でそんな極端な飛び級は無いのであまり問題ではないんでしょうけど。

ちなみに、僕は飛び級できる学力は無かったので、利用しなかったのではなく、できませんでした。(20代男性)

飛び級には賛成ですが、自分は利用しなかったです。学生の頃にかげがえの無い友人が出来、四半世紀たった今でも年に数回会い、飲み、近況を語ることが出来る仲間がいるからです。自分にとって、同世代の友人が出来たことで、自分には飛び級は必要ないと思いました。ただ、周りの環境や、友人関係で苦しい思いをしているのであれば、飛び級をし、分かり合えるであろう人達と生活、勉強をしたほうが本人にとって幸せなのかもしれないと思うので、飛び級には賛成です。(40代男性)

飛び級制度導入には賛成です。しかし「大学に数年早く入れる」というだけの制度では不十分だと考えます。

普通であることが正解であるかのように、「できない子に合わせて」授業を行い、「周りに合わせなさい」と指導している現状で、「成績よかったら飛び級してもいいよ」というのは解決策としてはあまりに安易な気がします。それでも自力で勝手に勉強して飛び級する人はいるでしょうから、意味はあると思いますが、もっと早い段階からその生徒にあった難易度の勉強ができる環境を整える必要があると思います。

確かに小学校や中学校では勉強以外にも学ばなくてはいけないことは多いですが、本来そのときに学ばなくてはいけない「勉強の仕方」や「目標のために努力する」ということを、「頑張らなくてもできる」という理由で習得できなかったのは俺だけではないはず。

個人的には飛び級制度よりも、学年に拘らずに様々なことが学べる制度を導入して欲しいです。ただ上の学年の授業が受けれるとかじゃなくて、もっと幅広い勉強ができるように。小学生がプログラミング学んだり回路組み立てたり。知能が高なくても、それで才能が開花する子もいると思うんですよね。

質問1でCと答えた人

私はCです。但し高校以降でなら飛び級は有りかもしれませんが。ある程度までの人格形成は手間と時間を費やすべきだと思います。昨今の子供たちの対応を見ても充分危機感を募らせてます。人格形成面を担保できれば勿論賛成ですが、実行レベルで考えると、現在のソフト

面への配慮を鑑みて結局飛び級制度だけが先行するリスクが拭えないからです。
あったら利用した理由は、「ステータス」以外の何者でもありません。孤独な子供になって
いたかもですね。その辺にも重点を置きつつバランスの良い国際競争力のある人材を輩出し
てゆきたいものです。(40代男性)

Cです。理由は現在飛び級を採用している外国のように飛び級をした学生を受け入れる社
会(学校や企業)や法律の体制ができていないからです。例えば法律上の日本の成人年齢であ
る20歳になる前に大学卒業した学生を受け入れられる社会の枠組みがないと早く大学を卒
業しても宝の持ち腐れになるかもしれません。
自分の場合は恐らく受入体制があり成人年齢が低い外国に活路を見いだすかもしれません。
ただしその場合は優秀な人材が外国に流出することにもつながりますし、日本にとっては得
策とは言えません。飛び級導入と同時に日本の法律上の成人年齢も引き下げることを検討す
るのもいいかもしれませんね。世界の主要国のほとんどの成人年齢は18歳ですから。
(40代男性)

私としては今の日本で飛び級は個人の幸せに繋がるケースが少ないと思います
まずは人格形成がある程度出来上がるまでは人間社会に身を置いて生きてもらいたいです。
(30代男性)

自分は今高校生ですが中学のころは何もしなくても偏差値70弱あたりにいるような人間で
したので、その時は飛び級とかあったらええなあ などと思っていました。勉強が苦手な人
に勉強を教えて優越感を味わうのが楽しかったレベル(最低です すみません)だったのでさ
っさと学年上がりたいなあと思っていました。
しかし調子によってある程度の高校にはいると、周りは努力家してきたひとばかり。勉強の
やり方が分からない自分は落ちこぼれ、今は下位25%レベル。
つまり何が言いたいのかというと、勉強をしなくてもできる人が飛び級をした場合、それ
について行けずに落ちこぼれる人が出てくるかもしれないということです。例え飛び級したと
しても、そこで落ちこぼれては意味がありません。そのような点を考えると、飛び級とい
うのはもう少し慎重になった方が良いのではないのでしょうか。
ちなみに全然関係無いのですが、義務教育のなかでの留年は賛成です。(10代男性)

日本人っぽさという表現が正しいのか分かりませんが、「お・も・て・な・し」やら「協調
性」などホスピタリティ精神を自然と身につけているのは、いまの日本の学校制度のお陰と
いうのもあるのかなと思います。というか自分はそうでした。なので勉学よりも友人との時
間の印象が強いため飛び級には抵抗があります。
個人的には飛び級制度よりも、+αの勉強や習い事などの出来る環境整備と、飛び級でき
るような人がそれらを利用する時の奨学金制度など充実させて、学年はそのままだに別
枠で時間を有効活用しやすい制度作りをした方がいいのではないかと思います。(20代男性)

小学校の時、大規模学習塾で飛び級「させられて」いましたが欠点の方が多いように感じ
ます。

1. 単教科ではなく全教科の飛び級となる
2. 暗記が必要な科目における学習空白期間
3. 友人との乖離（共通体験の減少）
4. 本来の学年における自分の成績把握
5. 親族のフォロー（兄の学年より上に行くケース）

高IQは理解のスピードが速いだけで、決して生まれた時から何でも知ってるわけではあり
ません。それに上の学年に行ってもやはり周りは理解が遅い。個人的にはやはり「飛び級」
ではなく、ギフトドを集めギフトドなりの教育をすべきだと考えます。

大学の単位制は上記全て関係なく快適でした。単位数だけなら2年で十分でしたけどね。（必
修フランス語を2年で落としたのは秘密です）

こんな本音はここでしか書けません。（40代男性）

私は、十代のうちは勉強ももちろんですが同い年、同世代の友達と仲良くやっていける術を
身に着けることが重要だと考えています。

そのためには、学習能力が高くて多少授業が暇になったとしても、同い年の同級生に囲まれ
て同じ時間を共有する必要があるのではないかと考えます。

長く時間を共有したことでしか得られない友人関係というのもあると思いますし、同い年の
そういった友達は大人になってからも貴重なものとして残るのではないのでしょうか。

恋愛においても同様で、もし飛び級をすると同い年の異性と恋をする機会が減ると思いま
す。

同い年の異性との全く対等な立場での恋でこそ得られる内面的成長もあると思います。

（これは年上の男性と付き合うと年下ポジションに立って甘えてしまうという私の個人的
な問題かもしれませんが…）

ただこれは、三十代になった今の考えであり、十代の頃は「早く先に行きたい、難しい勉強
がしたい」と思っていました。

同世代の友達と仲良くやっていく術を身に着けられず、クラスにもうまくなじめなかった時
期もたくさんありました。

ですので、当時飛び級制度があったならば迷うことなく利用していたと思います。

（30代 女性）

質問1でDと答えた人

小学校～高校で考えるならDです。

今の日本において、子供の進路に対して決定権を持つのは、子供本人ではなく親です。飛
び級という制度があれば、親の意思によって子供が飛び級「させられてしまう」事例が出
るのは目に見えています。

また、飛び級自体が目的となり、必要以上に勉強を強いられる事例も出るでしょう。友達と遊ぶ時間を削って勉強に打ち込めば成績は良くなるでしょうが、それでは勉強することしか能のない子供が出来上がります。

逆に、大学までくれば飛び級はアリだと思います。そのくらいの歳になれば、進路に対して自分の考えを持てるようになっているでしょう。(30代男性)

法制度、社会制度上のコミュニティを優先する日本の社会において飛び級した人の能力が活かせるかが疑問です。コミュニケーション能力とはいうけど、それはマスとのコミュニケーションであってここでいえば残り 98%の人も含めての対処能力。飛び級にそのような要素があれば別ですが…人生トータルで考えると、能力のある人には教育制度以外で補完すればいいのではないかと思います。最近の日本社会はその点寛容でもあるのではないかと感じます。自分が飛び級できる能力が無いから、やっかみかもしれません…

(40代男性)

フリートークの場に出た意見

<飛び級と社会・社会性>

少なくとも日本では、周りの人間とある程度同調できることが求められると思いますので、学力が高いからとりあえず飛び級させておけ、という発想はあまり良くない結果に繋がると思います。

人的資源などの問題はありますが、進級は通常通りに、やる内容だけをレベルアップさせて行くのが理想的だと思われます。

現実的に不可能であれば選択的に一部授業のみ上級と一緒に受けれるようにする。などが現実的な選択肢でしょうか。飛び級できたとしても一部の人間以外は結局社会人として周りに合わせることを強要されるのですよね…。見当違いの意見でしたら失礼しました。

(20代男性)

上の学年に行くより、能力が近い生徒が集まる方がやりやすい気はするんですよね。勉強のスピードではなく、濃度を上げる方向で。人口密度が低い地域では難しいでしょうが、ネットの発達した現代なら、どうかできないものかしら？ (30代 女性)

上級生との対話の方が楽に感じる子供がいることは否めないのではないかと思います。その場合当年学年で過ごさなければいけないことの方が苦痛なのです。

上の私の投稿の真意はそこにあります。

本人の資質を無視した飛び級は確かに反対ですが、十把一絡げに対人関係の形成が出来ないと断ってしまうのは強引過ぎると感じます。

一定の規範のもとに飛び級を許容するという体制が出来るといいと思っています。

ある程度年を重ねると年齢差が薄まると感じるのは精神的な年齢差が縮まるからだだと思います。

同じように同学年との同調行動に疑問・苦痛を感じる子供たちにとって飛び級が救いになるということを主張したいです。続くと思います。 (30代男性)

こんなことを言っでは竹市さんのこのスレットの論点自体がひっくり返ってしまいかねないのですが、私が疑問なのは飛び級のその先のことです。

飛び級をさせた子供には何をさせたいのでしょうか？

成功した子はいいです。その能力を遺憾なく発揮して、社会に貢献し人生を謳歌してくれるでしょう。

問題は失敗した子です。

日本は出る杭は打たれる社会です。(これは実感してきた方も多いかと思います)

自分の能力を見込まれて一度チャレンジして、失敗。

周りからはどういう目で見られるのでしょうか。どういうことを言われたりするのでしょうか。そこへのフォロー策がしっかりしないと、飛び級というのは日本ではあまり向いているとは思えません。

「チャンスは与えます。あとは自分と民間で頑張ってね」

ってのは、これから長い人生を控える子供たちにはちょっと無茶なんではないかと。

話はちょっとずれますが、昨年末に空手道大会に審判として出席した際、大会後の打ち上げでうちの師範達が言っていたのは

「空手が強くなることは大事だけど、空手道を通じて子供たちに人として大切なものをどれだけ伝えていけるか、教えていけるかが需要だ」

ということでした。

学校で教わることもまたそれに近いことではないのでしょうか。

勉強だけなら塾や家庭教師、予備校だけでいいです。

道徳や集団行動など、勉強でなく社会生活に必要なことを身に付けるというのが学校で最も重要なことだと、私は思っています。

そのためにも、勉強ができるからといって必ずしもその生徒（『生徒』と表現します）に飛び級が向いているかどうかはまたわからないことだと思うのです。(30代男性)

<科目の自由選択>

科目別飛び級は、飛び級と言うと中高一貫校じゃないと、授業を受ける教室の位置関係の問題で実現は難しいかもしれないけど、その場合には、単位認定制度みたいになるのかな。中学生でも履修して合格が認められれば、〇〇科目は高校課程修了レベルと認めるみたいな。それをいくつか集めると大学受験資格が得られるというような制度。

習熟度別クラス制度は、クラスの数が増加し、少子化の中でタダでさえ一クラス人数が減少している中、もっと少人数のクラスを生み出す。すると国の学校に対する助成を手厚く

しないと、今のままの政府の教育助成では、講師・教師人件費率が高くなりすぎて学校経営を圧迫するか、授業料が高くなりすぎて理想の習熟度別クラスを持つ学校に入れるのがブルジョワだけになる。日本は世界と比べても国が教育に対して余りお金を使いたがらない国と言われてきたから、もっと国に学校のためのお金を使ってもらってもいいかも知れない。あと給付型奨学金の充実とういのも、習熟度別クラス設計には必要かもしれないですね。（40代男性）

大学って必要になったらいくつ卒業してもいいし、別に卒業しなくてもいいと思うから、それをしやすい制度の一つとしても飛び級はありうるかもね。今高校卒業してから大学いくつも卒業すると働き口が日本には余りなくなるだろうから。まあ別に日本に拘る必要もないとは思うけど、若いうちの苦勞もしすぎるのは毒だと思うから。（多少の苦勞はいいとは思うんだけど）（40代男性）

一般教養は実は私は大好きな過程で、一般教養を今も充実させている大学はあることはあるのですが、あれは元々旧制1高でやっていたような内容だと聞いたことがある。中高が昔よりもゆるくなっているから、大学が一般教養をやらないといけなくなって、その結果、昔は4年間かけて指導していた法律をうちの大学では事実上2年少しで教えるようになってから結構無茶な講義スケジュールになったと教授がぼやいていた。千葉大の飛び級入学はニュースになりましたね。東大の法学部大学院は修士課程（通常2年）を1年に短縮、修士+博士（博士だけで通常3年）を合計3年に短縮する一種の飛び級制度があるのですが、修士を1年で終わらせると博士課程出願が許可されないからやめた方がいいと昔指導教官に言われましたね。あと修士+博士を合計3年にする制度は、使おうとすると「博士なんてとってどうするのかね。欲しければ勝手に留学して海外でとりたまえ」といわれましたから、制度はあっても学校側が実際に使うかという躊躇する制度ではあるのかもしれないですね。（40代男性）

友人が小学生の時代にご両親に連れられてアメリカに移住、飛び級していくつかの大学院を出ましたが、日本に帰ってくると動きづらいと言っていました。これくらいの期間アメリカにいるともう心はアメリカ人、でも顔は日本人、そして日本でも日本人として扱われるので、「何で分からないんだ」という扱いを受けたそうです。(英語はスムーズでも日本語は「冷奴」とか漢字が読めないものがある) 結局普通の就職コースではなくて、気に入って貰ったある上場企業の社長さんに役員待遇で迎えてもらって、ようやく好きなことができるようになったみたいですが、苦労したようです。

彼の場合は、頑張って最後にやりたいことが出来たけど、そうでなかつとしたら海外行ったらそのまま帰ってこないという選択肢もありかな。(海外だからといって成功するとは限らないのは当然のことであるが、選択肢の一つとしてはありえるとは思いうこと)

これは一見すると日本への裏切りにも見えるけど、海外にいながら日本の知名度を高めたり、日本人ってスゴイと思わしめる活躍をしている人の例は、南米の移民の方にもいるし、地方から東京に出てきて、東京で仕事やりながらふるさとに錦を飾った人、郷土にふるさと納税したりして、ふるさとを守っている人もいるから、かならずしも裏切りにならずに、海外で活躍し続けるという方法もあるような気がするから、私的にはいいと思う。

(40代男性)

<IQ と飛び級と学習>

IQ が高いから学習速度が速いのかどうか分かりませんが、仮に、IQ と知識獲得速度やその応用力に相関関係があるとしたら、飛び級は必要かもしれません。

でも、それであっても SQ や EQ は、同世代だからこそ醸成される部分もあるので、飛び級が本人にとって happy な結果になるかどうかは未知数だと思います。国家にとっては必要でしょうが、それで個人が犠牲になるのはどうなんだろうって思ってしまう。

僕自身、IQ が関係するのかわかりませんが、小さいころから知識獲得の速度は速かった方なので、小学校から大学、社会人研修などすべて、その速度が遅すぎて、まともに付き合っていたら時間ももったいないと感じていた部類です。まともに聞いてたら劣化すると思って、授業は全く聞かなかったです。1週間分まとめて数時間本を読めば（昔は教科書ガイドを使って先生が教えることもわかった）キャッチアップできたので、その分、学校をさぼったり、恋に溺れたり、遊びまくっていました。そのおかげで、いろんなタイプの人と上手に付き合っていけるし、恋愛も楽しんでいます。良かったと思っています。SQ や EQ は、その時に獲得できたんだと。今の仕事にもプライベートにも役立っています。ストレスを感じたことはありません。

今僕は、社会人対象の人財育成に関わっているので、教育にはこだわりがあります。その視点で言わせてもらえば、飛び級は、親や教師からの誘導ではなく、子供の明確な意思であって、SQ や EQ にも配慮してなされるならば賛成です。それ以外は反対です。

(40代男性)

飛び級を受験と同様に進路の選択と考えていいかどうかはまだ議論が必要だと思いますが、近年の「お受験」ブームを考えると子供が自己の決定に基づいて行わない進路選択にはあまり抵抗を持たない社会になってきたように思います。Sさんのように「児童がきちんと判断して選択できるか」という疑問を持つことは重要だと思います。たかが10年の知見で責任を持って親に頼らず「これが正しい」と言える子供はおそらくいないでしょう。義務教育、とりわけ初等教育の飛び級は子供一人で背負える問題ではないと思います。つまり「親が子供のためにどこまで真剣に考えてあげられるか」という家庭の問題になってしまいます。もし、飛び級を親が勧めるがままに利用して不都合があったなら、制度の責任ではなくて親の責任として処理するほかないように思います。高校からの導入では早く修了するとしてもその差は1年くらいなものです。1年2年早く学問を修めることを急ぐために旧来の教育体系を見直すことは無用だと思います。管理する行政の負担も考えれば飛び級は特例として扱いたいはずで。ならば初等教育という早い段階から導入して少なくとも4年程度上の学年レベルの飛び級を対象とするような飛び級でなければ政策として取り入れるのは難しいでしょう。(20代男性)

教育に関しては PDCA とかトライ&エラーとかではなく、慎重に検討した制度を高い完成度をもってリリースすべきだと思います。特に義務教育は。なぜなら生徒個人々人にとっては、一回限りの機会だからです。

たまたまゆとり教育にタイミングがあたった人たちは、いつまでもゆとり世代と言われ続けます。当事者においてはどうにもしようのない、取り返しのつかないことなんです。

(40代男性)

飛び級の具体的なイメージが人によって違う気がするのですが①目的は教育を早く終わらせることでしょうか。それとも同じ時間をかけてより高みへ登らせるためのものでしょうか。②基準は既存の学力テストでいいのでしょうか。IQ テストも一つの案ではあると思いますが、参考値にしかならない気がします。③具体的な飛ばし方は学年をまるごと飛ばすのでしょうか。僕は選択的に一部の授業のみ先へ進める(上級のものを受けさせる)のがいいような気がします。あとは現状に近いものだとコース分けをする(飛び級ではないかもしれませんが) のでもいいと思います。どの選択肢をとってもある程度差別ではないかという反発もあるかもしれません・・・少なくとも「とりあえず学年飛ばさせてみよう」はやめた方がいいような気がします。そんなことはしないかもしれませんが。①②③はどれも生徒ごとに答えが違う気がしますので単一の基準を作るのに苦労しそうですね。

(20代男性)

<公共性と教育>

「公共性」の観点というのは、教育を語る場では必ず出てきますね、

「ダレのための」が語る人によって異なる。例えば、国家のために有為な人材を育成するためにという観点を強調すると、戦前の飛び級教育が認められやすいけど、「子ども達の幸せのための」とすると、「友達をつくる」という観点が「将来の仕事のための学力その他のスキル」以外にも強調される。戦前の制度に詳しい人は教育関係はいることはいるのですが、余り多くを公の場では、ある種のはばかりがあって語らない人が多いのはあると思います。(軍に関係する機関とか戦前の主導者を育てたからということもあってちょっとタブーみたいになっているようです)

目的の部分は本来は、みんなのためにもなって、こどもたちのためにもなるのがいいはずだから、両方求めましようとなるはずかなと思うけど、よく意見の衝突が教育関係の研究会ではみられますね。

この場は、色んな意見をみんなでざっくばらんに語り合うだけで、一つの答えを出す場ではないから、面白い話が出やすいですね。

A から D までバランスよく色んな意見が出ていますし、自分の体験に絡めた話も沢山あって、これだけでも興味深いデータだと思います。(40代男性)

公共性の範囲は、「国(の予算)は何のためか」かな、と。

国の予算は国の利益にならないことには使えないので、

- ・ 子供が幸せになれば国が維持できるか
- ・ 優秀な人材を再生産すれば国が維持出来るか

の2つでは、理屈が通りやすいのは後者かなと。

なのでまず後者、それが出来てから前者かなあと。

実は前者が後者を包含してはいるんですが。

国にとって優秀な人材であることが本人の幸せに繋がらないことは、ままあります。

それが少ないうちは例外として扱うしかないでしょうが、

ある程度増えたら国という概念を変えるべき時期かなと。(40代男性)

公共性の話題は専門的に学習しているので補足したいと思います。国=政府+公衆です。)「国のため」というと非常にアバウトな話になってしまいます。おそらく皆さんは「国」という言葉を「国家」としてではなく「共同体」、または「市民社会」という意味で使っている

のだと思います。次に教育は個人の人格形成のための制度です。個人の人格形成の過程に「国のため」だとか「国の役に立つ」とかいう功利性を持ち出すのはあまりに勝手な話でしょう。豊かな人格形成を果たした人材は社会で貢献することが多く、世話を焼かせることも少ない。これは副産物なのです。作ろうとして作るものじゃありません。国や社会のために「良い教育」は必要ですが、「良い教育」は市民の人格形成にとって「良い教育」であり、国や社会というフレームに利するための教育ではないことを強く主張したい。

(20代男性)

ヨーロッパの近代市民社会では、civil society (市民社会) と言った時に、ラテン語の *societas civilis* の含みがある。そして *societas civilis* とは、本来ローマでは、「市民同士の平等な組合契約」のこと。社会は、市民の集まり。それに対して日本では、伝統的な「村社会」イメージがあるから、個人人格形成のお話ではなくて、それとは異なる「お上の意図」的なものが混じりこんでしまうのでしょうか。

国家論や、市民社会論は、ややテクニカルになるので、あまりここで詳しく語り合うと、法学部出身以外の人には通じにくくなるから、

「市民/個人の（そしてそのための）人格形成」の観点を忘れずに！

ということですよ。 (40代男性)

目的の部分で、国策みたいな観点が大事なのも分かりますが、そこを強調しすぎるのは私はあまり好きではないですね。受ける側にとっての教育は、義務ではなく権利なので、何か新しい成果を目指してというよりは、現状の課題を解決してよりよくするための飛び級であってほしい。どなたか書いてるかもしれませんが、高知脳が飛び級に関係してるんだとしたら、皆がそこを目指すようなものではなく、マイノリティに対する施策として捉えた方が良いのではないかと思います。

慎重に完成度を高めるべきなのは、個人をフォローする仕組みについて作り込むべきだということです。自分で飛び級を選べるのか、うまくいかなかったらやっぱり戻れるのか、得意科目以外は年齢に応じた教育が受けられるのか、等。(40代男性)

以上